

2. 昭和58年度 漁業後継者対策推進事業の実施状況

この事業は、沿岸漁業等振興諸事業の推進とあいまって、新しい知識と技術を持った漁村の人づくりが急務となっているため、次代の漁業の担い手である漁村青少年を対象に漁村青少年グループの組織化を図るとともに組織的な学習及び交流活動を強化し、漁業後継者としての地域自立経営型漁業者を育成することを目的として実施したものである。

昭和58年度 漁業後継者対策推進事業実施状況

事業項目	実施時期	実施場所	参加人員	参加者	実施状況
青少年協議会			(人)		
① 沖縄本島地区	9月5日	漁業者センター	12	協議会委員	○ 漁業後継者対策事業の検討、策定のための委員会開催(年3回)
	10月6日	石川市漁協	13	普及員	
	3月26日	漁業者センター	12		
② 宮古地区	9月9日	支庁会議室	6	協議会委員	
	1月24日	池間漁協	6	普及員	
	3月23日	支庁会議室	6		
③ 八重山地区	9月27日	八重山漁協	7	協議会委員	
	1月19日	"	6	普及員	
	3月28日	"	6		
交流学習会	59年 2月20日	漁業者センター	64	市町村、 漁協、漁協 青年部、 研究グループ	鹿児島県、与論町漁協トビウオ漁業研究会会長・南吉信氏による「アゴ(トビウオ)2そう曳漁業について」と題して講演による交流学習会が開催された。当日の参加者は各市町村の水産係、漁協の職員、漁協青年部、研究グループ員(64人)が参加し、個々の発言及び意見の交換、助言等があり有意義に終えた。

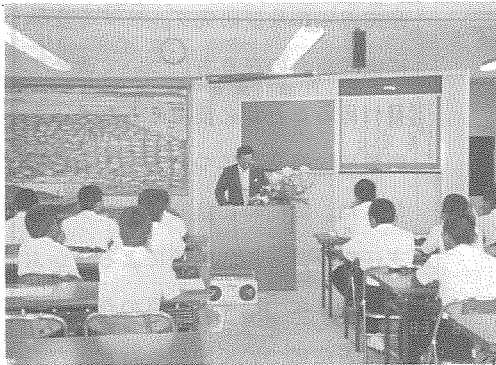
事業項目	実施時期	実施場所	参加人員	参加者	実施状況
	2月21日	本部漁民 センター	(人) 75人	市町村、漁協 漁協青年部 研究グループ	鹿児島県漁連漁政課対策課長・難波義彦氏による「漁業協同組合をめぐる今日的課題」と題して、具体的な事例をあげての講演が行なわれ参加者から質疑応答が活発に行なわれた。又、漁業者センター・瀬底正武普及員から、モズクの採苗水温と芽落ちの関係について指導も行なった。
技術交流会	7月24～ 26日	長崎県 (野母崎町)	2人	伊平屋漁協 青年部 糸満漁協青 年部	○青年部連合会の交流について 昭和59年をメドに沖縄県漁協青年部連合会結成を目途に、糸満漁協青壮年部員1名、伊平屋村漁協青年部1名を引率し、長崎県漁協青年部連合会総会にセットし交流会を図った。 (詳細については水産業改良普及活動実績報告書参照)
	12月12～ 14日	名護市	3人	八重山漁協 青年部	○魚類蓄養について 八重山漁協組合員の定置網漁業者3名が羽地漁協の蓄養漁業者と蓄養技術及び経営状況等について活発な意見交換がなされ今後の蓄養の必要性を強く感じた。
	59年 3月27～ 29日	伊江村	6人	糸満漁協青 年部3人 沖繩市漁協 青年部3人	○トビウオ1そう曳漁業について 糸満漁協3名、沖繩市漁協3名の漁業者を引率して県内でトビウオ漁業の盛んな伊江漁協でトビロープ曳漁業の技術交流を実施した。伊江漁協独得のロープ曳漁業は1隻の漁船を使用し、2人で出来る操業方法であ

事業項目	実施時期	実施場所	参加人員	参加者	実施状況
	59年3月 29～31日	糸満市	4人		<p>るので経費の少ない省エネ漁業である。糸満は2隻の漁船で行なわれているが網の規模は伊江島式より大きい。網の構造、操業方法については違いはない。トビウオ漁業の技術的な面と経営等についての漁業者間で交流が行なわれたことは、今後のトビウオ漁業の発展が期待される。</p> <p>○トビウオの2そう曳漁業技術と流通について</p> <p>追込網漁業の発祥地である糸満は昭和43年頃を境にこれまで20～30名の乗手で構成したトビウオ追込網は消滅した。昭和57年にトビウオ漁業の盛んな屋久島へ技術交流に赴き昭和58年に漁具漁法が導入され、糸満の地にトビウオ漁業が復活された。2隻の漁船で魚郡をまく、この漁業は4～5名の乗手で操業される県内で規模の大きい漁業である。</p> <p>八重山漁協では、この漁業に関心が高く曳縄予突漁業者4名を3月末に派遣し、実地研修及びトビロープの価格について交流会を行なった。魚体の大きい春トビウオは日帰り操業で500～700kgも漁獲され東北の市場に出荷、1尾当りの価格は350円、キロ当たり1,000円の高値で取引されているために4名の研修者には、漁具漁法並びに価格面で刺激となり意義ある交流会となった。</p>

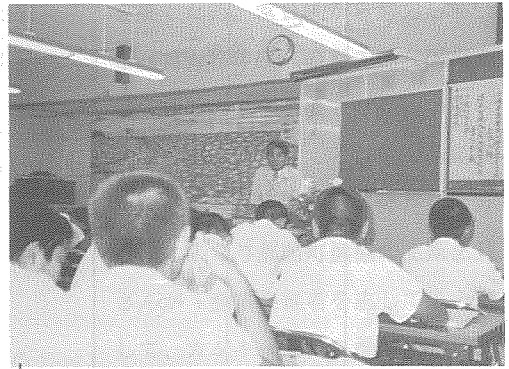
事業項目	実施時期	実施場所	参加人員	参加者	実施状況
漁村青壮年婦人活動実績発表大会	11月5日	労働福祉会館（那覇市）	250人	市町村、漁協農改普及所関係団体	本大会は、豊かで住み良い漁村社会を築くため、常日頃から努力している漁村青壮年婦人の自主的な研究実績活動の成果を発表させ今後の漁村地域の発展に役立てる目的で活動実績発表大会を開催した。発表した方々は4人で与那国町漁協の上原正旦さんが「漁業後継者を志して」と題して、カジキ一本釣り漁業にかける活動を発表。伊良部町漁協の伊良波淳世さんが「浮魚礁（パヤオ）周辺の操業効果と漁法について」伊江漁協の渡久地政廣さんが「島の漁業後継者として」八重山漁協婦人部の池井千代子さんが「漁家の良さを生かした『暮らしの工夫』」と題してそれぞれ発表した。審査の結果、渡久地さんと池井さんが県知事賞を受賞した。
少年水産教室（夏期学級）	8月1～5日	漁業者センター	19人	全地区の漁協組合員の子弟（中学生）	漁村の子弟に水産に関する初歩的な知識及び技術実習を中心にした夏期学級を開催した。今年は、与那原漁協（1名）伊良部町漁協（2名）池間漁協（2名）糸満漁協（1名）名護漁協（4名）本部漁協（4名）石垣漁協（4名）知念漁協（1名）が参加、講師は沖縄水産高校教諭・普及職員で夏期学級を開催した。
青年水産教室	9月29日	本部漁民センター	69人	市町村、漁協漁協青年部	。県漁政課金融共済係長北村盛武氏による「協同組合について」これか

事業項目	実施時期	実施場所	参加人員	参加者	実施状況
				研究グループ	らの漁村の指導者を育成するため、漁協青年部及び研究グループを主体に協同組合の在り方について改めて見つめることが必要であるため、水産業協同組合法について学習会を行なった。尚同時に漁業者センターの主任普及員・仲間勲氏による「かぶし釣漁業について」漁具の作り方や使用方法について説明を行なった。
	11月30日	海技専門学院	50人	市町村、漁協漁協青年部研究グループ	県水産試験場場長・伊佐次郎氏による「栽培漁業」についてと農水産開発代表者・新崎盛謙氏による「沖縄の養殖漁業」についてと題しての講演が行なわれた。参加人員50名。
	1月27日	海技専門学院	60人	市町村、漁協漁協青年部研究グループ	琉球大学助教授・目崎茂和氏による「サンゴ礁の発達と沖縄の地形について」と鹿児島県水産業専門技術員若松清氏による「グループリーダーの育成について」と題して講演が行なわれた。

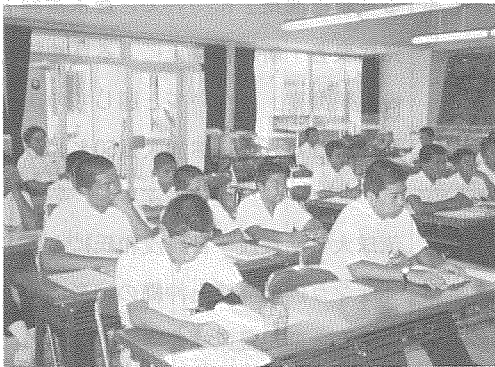
少年水産教室（夏季学級）



農林水産部伊野波次長より水産業の現状と重要性並びに今後のあり方について説明を受ける…成人したらがんばらなくちゃ。



水産業の組織系統の仕組みと産業としての役割を説く……むつかしいなあ。



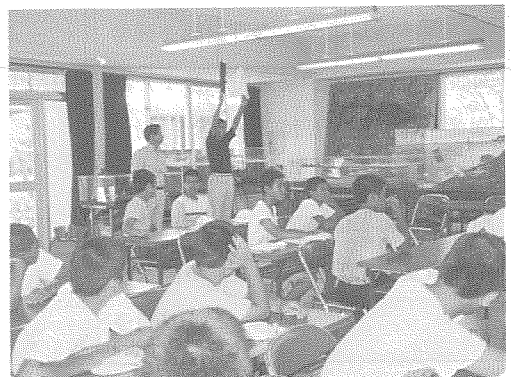
研修期間中の心がまえを聞く。友達も増えることでしょう



県旗のけい揚、これからの水産業は我々がなうことになる



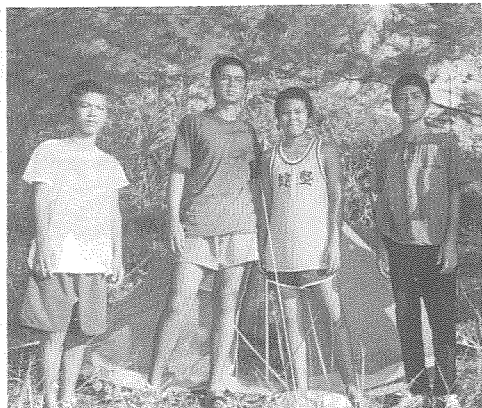
縄の結び方について指導を受けたが、ここはこうしてやるのかなあ？



手旗信号もならい、漁業者センターホール内での復習



体けん学習のため名護市嘉陽の浜に到着、昼食の弁当に舌つつみを打つ。



もう仲の良い友達になっちゃった。記念に1枚とってもらおう。



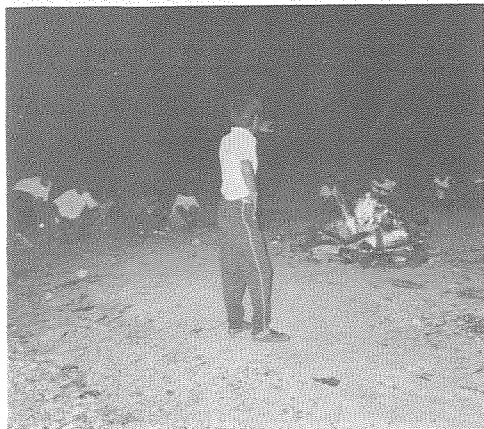
嘉陽の海岸で習った手旗信号の復習、皆んな頭が良いせいともおぼえている。



水泳もたのしい、遠くへ行ったらあぶないのでかん視のボートが見張っている



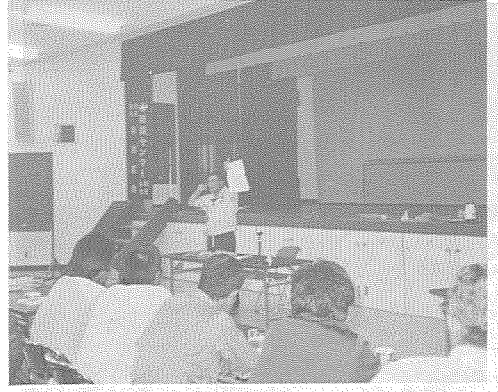
皆んな食欲おおせいで、水泳の合間にスイカをたいらげるところ



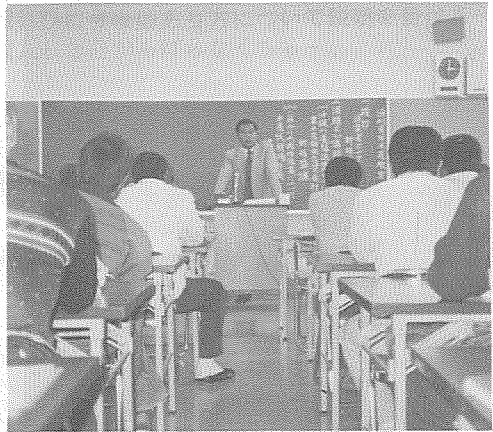
キャンプファイヤーを囲んで楽しい夕げのひと時、時間をわすれて広い砂浜に若い歌声がひびく。



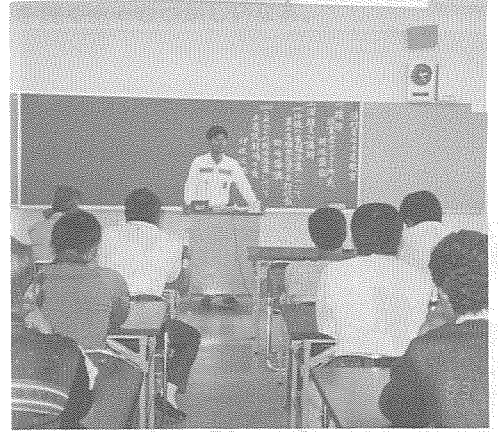
協同組合について
講師 県漁政課 北村盛武



かぶし釣漁業について
普及員 仲間 勲



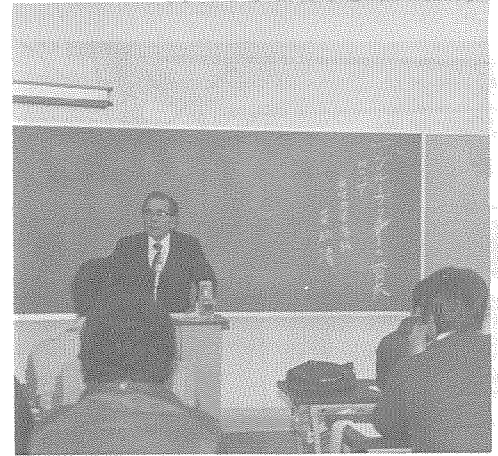
栽培漁業について
講師 県水産試験場長 伊佐次郎



沖縄の養殖漁業について
講師 農水産開発代表者 新崎盛謙



サンゴ礁の発達と沖縄の地形について
講師 琉球大学助教授 目崎茂和



グループリーダーの育成について
講師 鹿児島県専門技術員 若松 清